

川越における「奥」を感じる空間の身体的な図式の構成

日大生産工 ○外山 純輝 日大生産工 篠崎 健一

1 はじめに

本研究は、川越の「都市景観形成地域」を歩いて見つけた、「奥」を感じる空間の、身体的、空間の特徴を導き出すことを目的としている。そのために、人が空間に「奥」を感じる場合の、人と空間の関係を表す図式を抽出し、それらの図式の確からしさを検証したい。ここで図式 (schema) は、ものごとの知覚を方向付ける心的な構造を示す概念であり、空間図式は、主体と環境との空間的な関係によって主体を定位する図式である。

2 川越と「奥」

伝統的な街並みを残していく為に既存の保存、再生、活用をする為の活動が起こり、場の価値の向上を図る地域が多くある。それらの活動により、ある種のブランド性を獲得した地域は、観光地としての需要が高まり、地域の活性化につながっている。川越もその一つの典型である。一方で、生活空間が侵食され、大衆向けに整備された街並みは、ある種テーマパーク的と揶揄されるようなものになり、真の価値を失っているようにも思える。本来あるべき姿は外向けに塗り替えられてしまった。

そこで筆者は、川越の「都市景観形成地域」を丹念に観察して回ること、市が「町づくり規範」に定めるような一般的な保存、再生、活用では考慮されない地域の魅力を見出そうと考えた。そこで発見したのが「奥」を感じる空間である。

3 研究方法

3.1 基礎資料作成

「都市景観形成地域」を観察して回る中で「奥」を感じる空間に関する経験を写真に収め、「写真日記」として収集する。写真日記とは既往研究より、事実記述(経験に参与する写真によって確認できる事実の記述)、解釈記述(事実から何を解釈したかに関する記述)、経験記述(写真撮影時に経験したものごとの記述)の3つの文章と写真によって構成されたもので、これを基礎資料とした。

「奥」は視覚的要素以外に音や、匂い、人の活動や気持ちなども重要な要素になっていると私は考える。日時場所を限定せずに生活の中で収集し

た写真日記は、記録者の体験をとどめたものであり、暮らしそのものに基づいている。これにより人の生活に近い目線から「奥」についての考察を行うことができると考えている。Fig. 1に写真日記の例を記す。



Fig. 1 写真日記の例

3.2 情報の構造化

写真日記を基礎資料として、写真KJ法によって情報の構造化を行う。写真KJ法は文字情報だけでなく、視覚情報に基づいて行うKJ法である。基礎資料を関連性のある資料ごとにグループとし、グループ全体の情報を表現するような文をそのグループの表札とする。第一段階としてできるグループをAとし、その後同様の作業でBとグルーピングを行い、最終的にすべての資料の 内容を包含する表札をもつグループCを最上位とする情報の構造を得る。

4 分析結果

筆者は実際に街を歩き観察することで写真日記を作成した。これは、生活の中で訪れた場所や気づいた瞬間を記録したものであり、街の生活に基づいている。これらの分析からグループA(A01～A30)、グループB(B01～B13)、グループC(C01～C04)を得た。グループCにおける各分析結果を以下に記す。またFig. 2にグループA～Cの表札とその階層を示した。

Construction of body scheme of space to make us feel “the depth” in Kawagoe

Junki TOYAMA and Kenichi SHINOZAKI

[c1] 各部分は自分より高位レベルの全体へ向けた顔と、自分より下位部分へ向けた顔をもっている。各部分は部分でもあり全体でもあるという二重性を持ち、複雑に絡み合うことで全体に安定性が生まれる。

[c2] 実存的空間において常に人は中心にしようとする。中心とは心の見えざる原点のこと。

[c3] 完全に隔てられているのではなく、部分的に視線が通る時、対峙する人の意思によって2つの空間が繋がったり分断されたりする。

[c4] 対比や変化を内包した空間に私達は惹かれる。想像を膨らませる。

5 おわりに

記録者の経験を含めた基礎資料としてまとめ、その関係性からグループ化を行い分析することで、「奥」を感じる空間の特徴を示した。今後は

基礎資料となる写真日記を増やしながら、研究の確からしさを検証したい。また、最終的には、運動感覚的イメージスキーマと結びつけようと考えている。

本研究は、東京工業大学藤井晴行・日本大学篠崎健一研究室共同主催の空間図式研究会の活動とその成果に着想を得ている。関係者の皆様に謝意をあらわします。

参考文献

- 1) George Lakoff: 認知意味論, 紀伊國屋書店, 2016, pp. 14-24
- 2) 川喜田二郎: 発想法, 中公新書, 1963
- 3) 福田隼登, 藤井晴行: 空間体験に基づいた心地よいシーケンスの身体的な図式の表現方法に関する研究, 学術講演梗概2015(情報システム技術), 2015, pp. 101-104, 2015
- 4) 藤井晴行: 創造という行為の研究について, 人工知能学会Vol. 28 No. 5 Spt. 2013



Fig. 2 A~Cグループの表札の階層